

グループトーク「大間視察の様子を聞いて、何を感じたか」

C班：7人（視察メンバーである稲田氏を含む）

稲田：では、私からやらさせていただきます。

コミュニケーションは一朝一夕でできるものでもないし、するべきものでもないのだな、ということをしみじみと思いました。

それから、難しいのですが、日々の生活、将来の町づくり、お金の話、地域振興の話もありましたけれども、両立させるためには、これも簡単に答えの出る問題ではありませんので、悩む時間が必要だし、悩んでしかるべきだなと思いました。いろいろな試行錯誤が必要です。

当然ですけれども、自分の子供や孫の世代に胸を張れる取り組みをしていきたいと改めて思ったところです。私からは以上です。

—— これを見て分かったのは、なぜ原子力を誘致するのか。住民からの徹底した意見、どういう町づくりをするのか、これを誘致することによって経済的な貢献はあるけれども、それを含めて、自分たちの住んでいるところをどんな町にしたいのかということ、行政と住民が徹底して考えて、意見を積み上げて、それで出た結果であれば、推進派、反対派という町を二分することを避けられるのかなど。全ての情報を集めて議論することが前提かなと思いました。

—— 私は、個人的には原子力は必要だと思っています。というのも、日本は資源がないので、エネルギー資源をどうにかしなければいけない。方法は原子力に限らないと思います、再生エネルギーとかいろいろあると思うのですが、私はその中で原子力が必要だと思っています。

というのが大きい話なのですが、じゃあ実際にはどうかというと、今日のワークショップを見ていて、やはり誘致のモチベーションになっているのはあくまで経済、三法交付金とかが大きな力になっているのは間違いないな、と思いました。

じゃあ、その三法交付金を受け取るのはどこかかというと、誘致をされている地域だけで、周辺の自治体は、リスクは被るものの、メリットは当事者ほどは受け取らない。こういったリスクとメリットのアンバランスというのが、日本として原子力をやる、やらないといったときのベースになっているのではないかというのが今日の実感です。

あとは、最後に木村先生もおっしゃったと思うのですが、安全に対して、「会社にお任せします」というのは少し目立つところがあったので、会社としても地元としてもそこはもう少し考えていかなければいけないのではないかなと感じました。以上です。

—— 私は途中から入ってきたもので、どなたからも話が聞けなかったのですけれども、こういう企画は非常にユニークであるなというのが第一印象です。ただ、今言ったように、全体が把握できなかったのがちょっと残念だったなど。

あとは、講師の方は、原子力は発電と核兵器というふうに説明されたけど、私は、原子力は発電だけではないと思っていますし、しかもエネルギーは重要だということは分かっているつもりです。「反核」というのは、私の捉え方では「反核兵器」であって、反原子力ではないです。核兵器には反対ですけれども、それが原子力と結びついた歴史が問題になっているということは認識しています。

実は大間には 10 年ほど前に行ったことがあります。どちらかというとな推進派というか、町のトップの関係の人たちの団体に入って、大間に行きました。そのときはできたので、できたてといってもまだ建設中で、それほど建っていなかったのですが、発電所を見てきました。そういう立場で行ったものですから、今回のように町の中を歩いていろいろ把握してくるというのは非常に面白いし、それがいいのかなと思いました。以上です。

—— 私は、ワークショップの話を紹介されたときに、大間にせっかく視察に行かれて、その中で、原子力発電所を初めて運営する電発がどういう悩みを持っているのか。それを細かく聞けるのではないかな。それから町の状況とか、全体の発電所を作ろうとしている日立とか、その他のメーカーがどんな悩みを持っているかということが分かるのではないかな、と期待していたのですけれども、視察に行かれた人たちの時間的な問題もあるでしょうし、それから狙いがそういうところではなく、もっとグローバルなものを見たい、ということだったようで、それがちょっと結果としては残念でした。

もう 1 つは、ワークショップの中で、大間町がどういう町づくりを今後していこうとしているか、ということを知りたくて、皆さんにお話を伺ったのですけれども、「明確なビジョンがあってやっているような感じはあまりしなかった」という答えを聞いて、今からそういうことでいいのかな、という心配をしました。もう少しきっちりしたビジョンを作って、全体を引っ張っていくようなことをしないと、そのうちまたいろいろと反省が必要になるのではないかなという心配をしました。以上です。

—— 私は、特に立地地域の誘致した経緯から聞けたというところは良かったと思います。やはりひとつ思ったのは、地域振興とのジレンマで、経済対策が多い中で、収入と原子力安全のリスクとにどう向き合うかということです。

「安全対策はお任せ」というキーワードも印象に残りました。事業者と立地地域が相互に監視し合って、いいものを作っていくことが大切だと思います。丸投げで事故が起きたらどうなるのか、というところが気になるので、立地地域も原子力に対する知識、駄目なところは指摘するような力、が必要なのかなと思いました。

あとは、防災対策が進んでいないというのも引っかけたところではあります。

また、先ほどあった「安全という言葉が復活し始めている」という話、福島事故の教訓が風化し始めている、まあ、まったくそんなことはないと思っているのですけれども、少しそういうキーワードが増えてきているところは少なからずあるのかなと。「安全」と言うよりは、原子力発電所は常に「リスク」があるもの、と認識して、そのリスクが大きいのか、小さいのか、ということのを互いに認識し合うことが必要なのかなと感じました。

—— 私も途中から来たので、写真は軽く見る感じになってしまったのですけれども。写真とか話を聞いた印象では、地元の方は原子力に関しては、反対している人はあまりいないのかなというイメージを感じました。

あとは、地元の町のイメージに統一感がないのかなと。どのような街づくりをしたいのかがよく分からなかったな、というイメージが強かったです。

大間というとマグロのイメージが強いのですけれども、原子力の町であることがマグロに全然影響がないということであれば、こういう不安はないのかな、という印象を受けたのですけれども。観光面についてはイメージがあまりないのですが、新たな PR 活動などに力を入れているのかな？ と思いました。

稲田：せっかくなので、ちょっと気づいた点で私から。

町のランドデザインとか方向性については、正直、今回質問はしなかったのですよ。その意味では聞かなかったのですが、特に力を入れていることは何ですか、と聞いたところ、「やはり地域の高齢化も進んでいるし、これだという産業がマグロくらいしかない、最北端だということしかない。これからは、観光や地域振興、エネルギー、多方面にわたって、それぞれにやっていかなければいけないと感じている」とおっしゃっていました。エネルギー周りでは原子力をやっているけれども、そればかりではないし、人がきちんとそこに定住してくれて、子供たちがそこに先々住み着いてくれるためには、経済振興も必要だし、一方で、いろいろな産業が成り立つためには観光にも力を入れていかなければならない。観光というのは、マグロだけではなくて、イカとか牛とか、様々な特産に力を入れていかなければいけない。おっしゃるように、これだ、というものは見えないのかもしれないですが、それだけに、いろいろ取り組んでいかなければいけないね、という意識はあるそうです。

行ってみると、なかなか厳しい土地です。風は強いし、寒いし、可住地面積は狭いし、平地も比較的少ない。人が生活するには難しい要素があるのではないのかなと。

—— ひとつ疑問いいですか？ 青森県って、原子力だと六ヶ所の再処理のほうが有名だと思うのです。それでも原発を新たに誘致する経済的なメリットって大きいのですか？

稲田：実は、六ヶ所とは直接関係がなくて、(原発誘致の) きっかけは、電源開発が基幹の電線を北海道のほうからパイプラインでつなぐために、電線を強化していったつながりが

あったそうなのですね。そのつながりがあったので、大間としては地域振興をやっていきたいと。たぶん青森県全体としては、県庁もいろいろ考えていたのでしょうけれども、大間の方から聞いた感じでは、あくまで町の有力な地域振興策として誘致した、という話でした。

木村：はい、それでは、前半の共有はここまでにさせていただきたいと思います。

グループトーク Cグループ (1/2) 「大間視察の様子を聞いて、何を感じたか」

コミュニケーションは一朝一夕でできるものではない。	なんで誘致するのか、下からの徹底した意見の積み上げと、プラス、マイナスの全ての情報を公用することが前提。経済効果以外にどのような町づくりをするのか行政は意見を吸い上げるべき。	個人的には原子力は必要だと考えている。	大間の話を聞いて、地元が経済に期待していることを理解した。	企画はユニークである。時間が足りず全体の様子が把握できず残念。原子力=発電、エネルギーだけではない、反核=反核兵器 は分かる。
将来の生活と将来のまちづくり、両立させるために悩む時間が必要です。		リスクを受けるのは地元だけじゃない。	リスクとメリットをどう分け合うのが公平なのか考えることが必要。	
子供や孫の世代に胸を張れる取り組みをしていきたいですね。		安全に対する議論はもっと深めるべき。		
地元住民の方は原子力反対をしている人は少ない。原子力は必ず安全なものではない。町の様子から統一感がない。大間のイメージはマグロが強い。観光が弱い。	地域振興とのジレンマ。	立地地域の原子力に対する知識の必要性。	原子力発電を初めて運営する電発の悩みを探ってほしい。	
	防災対策の必要性。	安全→リスクへ。	大間町の今後の施策方向は？	